



深海における海流の有するエネルギーの電力への転換と発電

黒田インターナショナル

黒田 毅

深海の流動する海水は、海上から蓄積する海水とともに、その質量と流動性において莫大なエネルギー量の電力への転換を可能とできるものである。これらエネルギーの転換比率を50%において行っても、日本のすべての電力使用量を賄えるのである、これらはギア比率を調節し、深海における流動する海水における電力への転換をその大きな流動性における深海調査とともに、その水力における発電を実現できるのである。

これらは発電環境の開発し、送電線の設置とともに、莫大な電力の共有を実現できるのである。深海において、堆積と質量と流動性は、エネルギーを有し、その変換効率性を50%に設定し計算すれば、そのエネルギーの電力への転換量を計算できるのである。

これらは重いギアが、その大きな質量とタービンの回転における発電効率の構築を求め、送電線における電流の送付を経て、その利用環境を提供できるのである。

これらは近海における深海までの送電線の設置を要求されるものであるが、それら発電量に対してコストはペイできるものである。

これらは深海の海流調査とともに、その大きな流動エネルギーの電気への転換を行い、事業化を提案したいと考える。これらは物理学において、深海のその圧縮された質量と流動性におけるエネルギーを計算し、50%の転換を目標に計算しても、日本のすべての電力使用量を賄うことは可能なのである。